わかる・伝わるハザードマップのあり方検討の進め方(案)

・まちなかに浸水深や避難所の位置等を示す標識

(まるごとまちごとハザードマップ)

TEMATA	「艮中中人神児・佐っコス切除		''마##/仁 목L BB L \
理解されるべき 事項	「屋内安全確保」等の可否判断 	「立退き避難先」「避難経路」の選択 	避難行動開始タイミングの決定
第1回検討会 での意見要旨	 避難行動の判断は一人ひとりが考えることが必要。 居住地のみならず勤務地等の所在する場所の情報も必要。 想定最大規模の降雨のハザード情報のみならず降雨規模毎のハザード情報があると良い。 広域的な情報とピンポイントの情報のどちらも必要。 	 避難所へのアクセシブルルートが必要。(避難所そのものがそもそもアクセシブルなのか) 福祉避難所の情報や、避難経路の支障箇所などの情報が必要。 	 分かりやすいハザードマップでも、災害発生時のタイミングで初めて見るのは、理解に時間はかかる 人的支援とICTの両輪で考えていくことが必要。 避難する際の人的支援情報が必要。
既定の情報 及び 新たに提供を 検討すべき情報	【既定の情報】 ・ 想定最大浸水深 ・ 家屋倒壊等氾濫想定区域 ・ 想定浸水継続時間 【新たな情報】 ・ 降雨規模毎の浸水深や浸水範囲	【既定の情報】 ・ 避難場所等の位置 【新たな情報】 ・ 福祉避難所の位置 ・ 避難先の受入可能人数 ・ 避難先のバリアフリー化等の設備に関する情報 ・ 道路の通行支障に関する情報	 (既定の情報】 避難情報、河川水位情報、気象情報の伝達方法や入手方法 【新たな情報】 平時において避難行動の確認を促す誘導情報(マイ・タイムライン等) 河川水位予測情報
印刷物で提供できる情報 <現在> 【今後の推奨事項】 <i>【将来の目標】</i>	<現在> ・ 想定最大浸水深、家屋倒壊等氾濫想定区域、想定浸水継続時間 【今後の推奨事項】 ・ 屋内安全確保可否を判断するためのフローチャート等 【将来の目標】 ・ 降雨規模毎の浸水深や浸水範囲	<現在>避難場所等の位置 【今後の推奨事項】 <立退き避難先の選択> ・福祉避難所の情報(位置等) ・バリアフリーの実施状況 <避難経路の選択> ・大雨時に冠水し通行できなくおそれのある道路や避難時の利用を推奨する道路 ・マイ・ハザードマップ(地区別に避難ルート等を示したマップ)	<現在>避難情報、河川水位情報、気象情報の伝達方法や入手方法 【今後の推奨事項】 ・マイ・タイムライン作成ツールの掲載 ・QRコードによるWebサイトへの誘導
印刷物に加えICT で提供できる情報 【今後の推奨事項】 【将来の目標】	【今後の推奨事項】 ・ GPSによる現在地のハザード情報 ・ 自宅等条件入力による避難行動指南 ・ 音声による情報提供 ・ ピンポイント情報から広域情報まで同一任意の縮尺での情報提供 ・ 視覚障害の特性に応じたレイヤー色調の変更対応 ・ 降雨規模毎の浸水深や浸水範囲(多段階浸水想定) 【将来の目標】 ・ 3DやAR等を活用することよるリスクについて理解の支援	 (今後の推奨事項】 ・ 避難所のバリアフリー化等設備の詳細情報(避難所の収容人数、福祉避難所の情報(位置等)、バリアフリートイレの有無・数) 【将来の目標】 ・ GISIこよる避難先等の選択指南 ・ GISIこよる最適通行ルート指南 ・ 道路規制等のリアルタイム情報 ・ 避難所の受入人数のリアルタイム情報 ・ 避難可能な宿泊施設のリアルタイム情報 ・ 避難可能な宿泊施設のリアルタイム情報 	 【今後の推奨事項】 避難情報のプッシュ通知 河川水位情報のプッシュ情報 自身のマイ・タイムラインのデータとリアルタイム情報の連動 障害者等とその避難を支援する者との情報共有化 【将来の目標】 河川水位予測情報のプッシュ通知
点字や音声等の 補助手段により 提供できる情報	く点字・音声案内> 代表地点の想定最大浸水深、想定浸水継続時間、家屋倒壊等氾濫想定区域 屋内安全確保の可否判断方法の考え方 地区ごとの避難場所等や福祉避難所の名称、所在地 大雨時に冠水し通行できなくおそれのある道路の主要地点 (点図等> 家屋倒壊等氾濫想定区域の範囲、浸水が深い範囲 くその他> またなりに浸水深め避難所の位置等を示す標識 		<点字・音声案内> ・ 避難情報の入手先の案内 ・ 避難開始のタイミングの考え方